

SAMPLE

特集レポート No. 053

FX事業者の競争戦略

Strictly Confidential



2017年 6月28日

はじめに

- FX(外国為替証拠金取引)はインターネットによる取引が一般化した2000年以降普及し始め、開設済みの口座数で650万、取引実績口座数で70万を超える規模に発展している
- 産業の誕生からわずか20年足らずの歴史であるにもかかわらず、業界は黎明期、勃興期を経て、また数々の経済危機による外的環境の変化も経験し、一通りの成長プロセスを通過してきたといえる
- 現在でも数十社の取引業者が凌ぎを削る多数乱戦の業界であり、今なお取引業者が流動する業界ではある。FX業界を、短期間のうちに事業環境の変化、競争業者の統廃合を経験した業界としてレビューし、戦略的示唆を考察していきたい

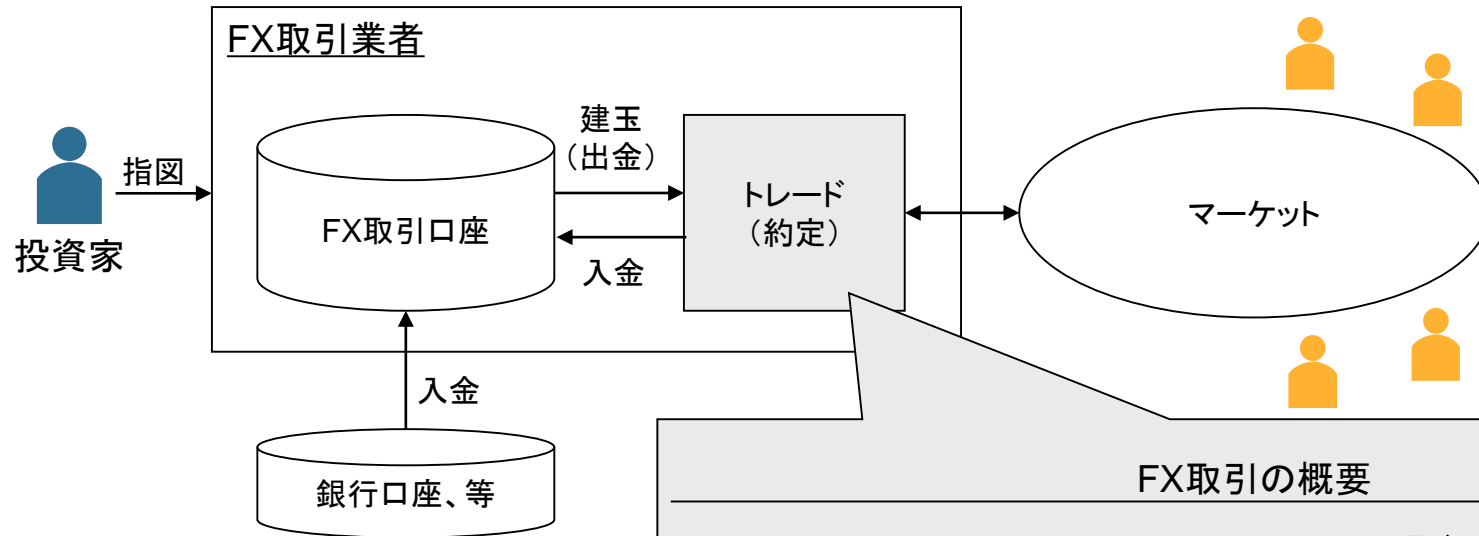
本資料の流れ



- I. FX(外国為替証拠金取引)とは
- II. FX業界の歴史
- III. FX業界の主なプレイヤーと競争動向
- IV. FX業界の今後

FX(外国為替証拠金取引)とは

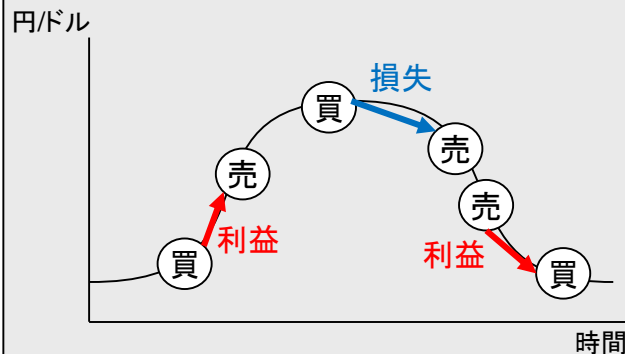
- 金融商品としては外貨預金に類似した性質を持つが、レバレッジが掛けられる、売り注文から入れるなどの特徴を有する
- 変動が大きい為替を扱ううえ、レバレッジを掛けられるため非常にハイリスク・ハイリターントレードとなるにもかかわらず、国内では個人の資産運用の手法のひとつとして認知され、主に個人投資家に普及



*用語解説

- スプレッド: 買い取り引きの為替レートと売り取引の為替レートの差異。取引の手数料のようなもの
- スワップ: 外貨取引の際に生じる金利差。低金利通貨を売って高金利通貨を買うとスワップによる収益はプラスとなる。その逆をやるとスワップはマイナスとなる
- レバレッジ: FXは差金決済なので小さな資金でも大きな取引をおこなうことができる。実際の預入証拠金の金額の何倍もの金額の取引ができる、この倍数をレバレッジと呼ぶ。

FX取引の概要



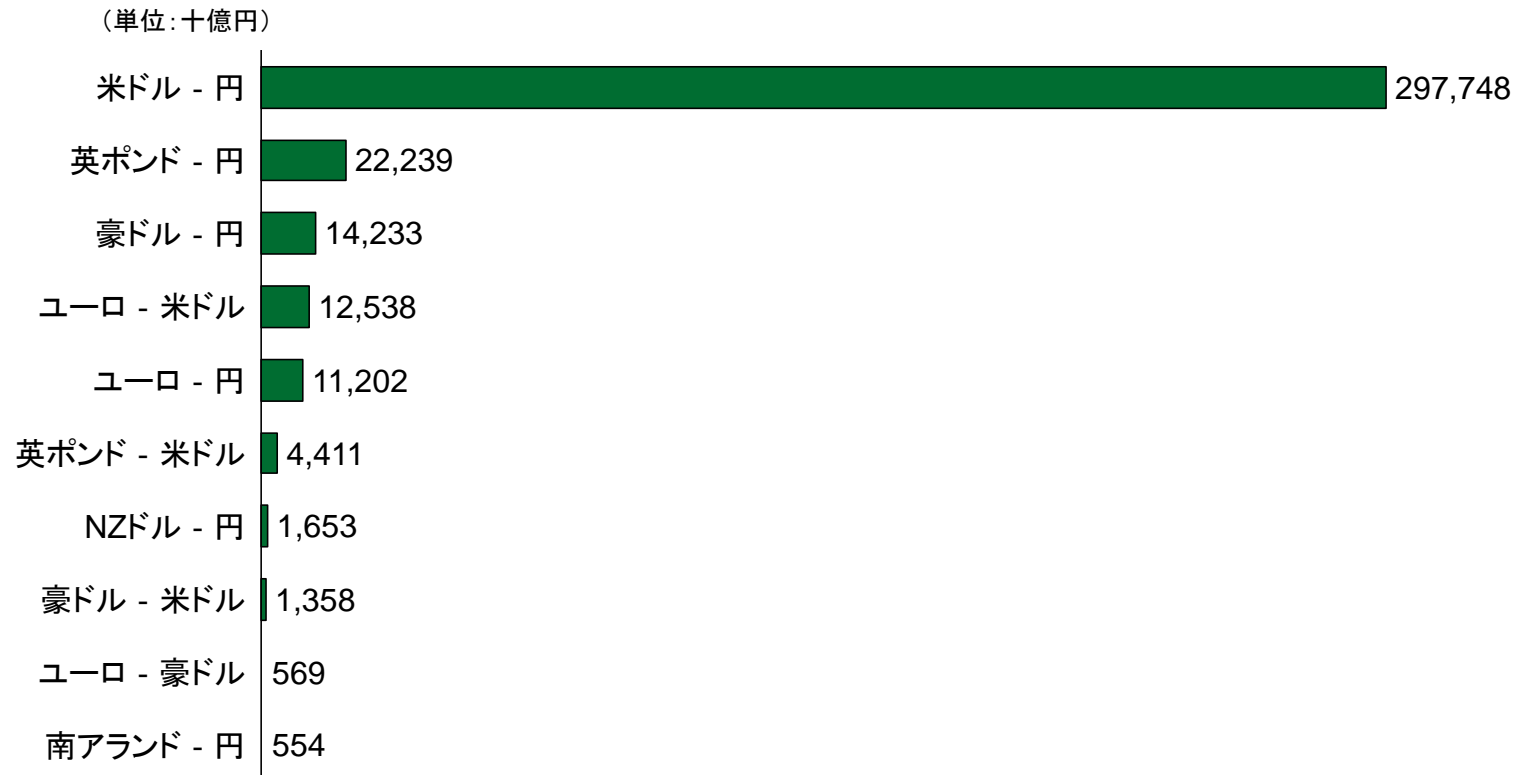
- ※ 取引ごとにスプレッドが発生
- ※ 為替の変動にともなう差益・差損に加えて通貨間の金利差による損益(スワップ)が発生

- ラインナップされているなかで、好きな通貨ペアを選択可能
 - 円/ドル、ユーロ/ドルなど
- 為替の変動に合わせて買い注文、売り注文を入れることで、為替変動に応じた利サヤを得ることができる
- レバレッジ(1~25倍)を掛けることで少額の資金(最低数千円単位)でも数十万円~百万円単位のトレードが可能
- 売り注文から入ることも可能

FX取引に利用される通貨ペア

- 国内でFXで取引される通貨ペアは「米ドル - 円」が圧倒的

通貨ペア取引額トップ10(2017年3月)



FXのサービスとしての特徴

- 個人投資家が短期間のうちに大金をつぎ込み、のめり込んでしまう条件がそろっている

いつでもトレードできる

- 24h、月曜早朝～金曜深夜まで、PC、スマホでトレードできる
 - 国内株式の取引は市場の取引時間(9～15時)に限定される
- 相場がリアルタイムで変動し続けるため、1日に何度でも注文を入れることができる(都度スプレッドはかかる)

ギャンブル的・ゲーム的な要素を見出しやすい

- 短期の為替変動は不確実な要素が大きく、ギャンブル的な要素が強い
- レバレッジをかけることができ(1～25倍)、高いレバレッジをかけて大きく儲けることができる
- 為替変動が起こり、値幅をとりやすいトレードチャンスが定期的にやってくる
 - 米雇用統計(毎月)、FOMC(年8回)、日銀金融政策決定会合(年8回)、各種選挙、等

シンプルで分かりやすい

- 株式や債券ほど知識を要求されずにトレードできる
 - 為替の変動を「上がる」か、「下がる」かで予測するだけ
 - トレードの対象となる主要な通貨ペアは通常3～5種類程度

ハマると奥が深い

- 勉強し、工夫すれば成果を挙げられる側面もあり、実益を兼ねた趣味となり得る
 - 経済、市場情報の活用(ファンダメンタルアプローチ)
 - 相場変動実績データ(チャート)の活用(テクニカルアプローチ)
 - 条件付きのシステムティックな注文の活用(トレード戦略)

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

